

『新詳地理資料 COMPLETE 2027』に込めた想い

株式会社帝国書院 第二編集室 地理班

本書は 2007 年の発刊以来、豊富な情報をビジュアルかつ整理された紙面で展開する「地理資料集の決定版」をめざし、改訂を重ねてまいりました。地理総合の必修化以降は、地理総合・地理探究の教科書に対応した内容の充実を図っています。2026 年版では、「自然災害・防災」・「地球環境問題」など地理総合の各単元を強化するとともに、「世界地誌」を地理探究教科書の配列に合わせた構成に整理いたしました。2027 年版では、「工業」・「第3次産業」・「観光」など**系統地理を中心に改訂**を行いました。また、先生方からご要望をいただいていた、「**教師用紙面データ**」を Web サポートに新たに収録しました。

以下、ご審査用見本とともにご一読いただき、ご検討の参考としていただければ幸いです。

◆『新詳地理資料 COMPLETE 2027』の特色

① 最新動向を踏まえた系統地理の強化

「工業」では、分業が進む現代工業の動きを踏まえ、p.140-141「**工業の分業体制と変化**」を新設しました。ファブレス企業や EMS 企業、OEM など新しい形のサプライチェーンについて、教科書の内容から一步踏み込んで具体的に解説しています。また、近年の大学入試では、身近な事柄を手がかりに地理的事象を考察する問題が増えています。例えば、現代工業における行程ごとの付加価値のちがいを、p.140⑥のスマイルカーブの模式図で示し、上流工程の一例として、p.140⑤でアップル社を紹介することで、生徒の皆様にも身近なスマートフォンと結びつけて学習内容を具体的に理解できるようにしています。さらに、p.156-157「**成長するサービス業**」も新設し、躍進するコンテンツ産業、需要が増加している医療・福祉産業を取り上げています。製造業のサービス化や高齢化の進展など事象の背景も丁寧に解説しておりますので、是非ご一読いただけますと幸いです。

工業の分業体制と変化

1 工業の分業体制

現代の工業は、分業が進み、部品生産や加工・組立など、工程ごとに専門化する傾向が強まっています。このように、工程ごとに専門化する傾向を「**工業の分業体制**」と呼びます。この体制により、企業は自社の強みを生かして、競争力を高めることができます。

2 新しい形のサプライチェーン

近年、自動車や家電などの分野で、部品メーカーが最終製品の設計や生産に深く関与する「**ファブレス企業**」や、最終製品の設計や生産に深く関与する「**EMS 企業**」が増えています。また、最終製品の設計や生産に深く関与する「**OEM 企業**」も増えています。これらの企業は、最終製品の設計や生産に深く関与することで、競争力を高めることができます。

3 スマイルカーブの模式図

スマイルカーブは、製品のライフサイクルにおける付加価値の推移を示す模式図です。横軸は「工程」で、上流工程から下流工程まで示されています。縦軸は「付加価値」で、高付加価値から低付加価値まで示されています。スマイルカーブは、上流工程で高付加価値を生み出し、下流工程で低付加価値を生み出す形状をしています。

↑ p.140「工業の分業体制と変化」

3 躍進するコンテンツ産業

近年、ゲーム、マンガ、アニメなどのコンテンツ産業が急速に成長しています。この産業は、デジタル技術の進歩により、より高度な表現が可能になりました。また、インターネットの普及により、コンテンツの流通も容易になりました。この産業は、今後の成長が期待されています。

4 金融・保険業

近年、金融・保険業は、デジタル技術の進歩により、より高度なサービスを提供できるようになりました。また、インターネットの普及により、金融・保険サービスの利用も容易になりました。この産業は、今後の成長が期待されています。

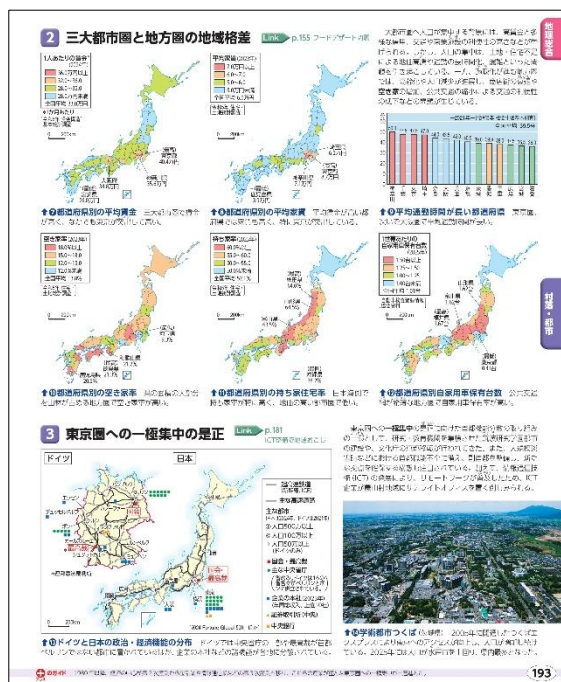
5 医療・福祉産業

近年、医療・福祉産業は、高齢化の進展により、需要が増加しています。この産業は、高齢者の生活の質を向上させるために、重要な役割を果たしています。また、デジタル技術の進歩により、医療・福祉サービスの提供も容易になりました。この産業は、今後の成長が期待されています。

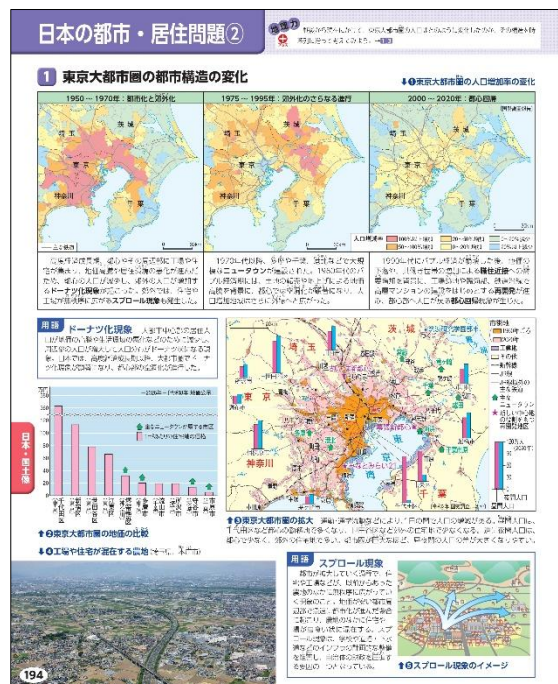
↑ p.157「成長するサービス業」

② 入試に頻出の「日本の都市・居住問題」を拡充

大学入学共通テストをはじめ、入試で頻出する「日本の都市・居住問題」を、p.192-195 の2見開きにわたって大幅に充実させました。p.193 ②「三大都市圏と地方圏の地域格差」では、都道府県別の平均賃金や平均家賃、空き家率などの図を掲載し、国土全体の視点から大都市圏に人口が集中する背景や、それに伴い生じた課題を考察できる構成にしています。また、続く見開きの p.194 ①「東京大都市圏の都市構造の変化」では、異なる時期の人口増加率を比較することで、ドーナツ化現象や都心回帰現象が起こる因果関係をより深く理解できます。国土全体から都市へと視点のスケールを変え、身近な暮らしと日本の国土が抱える課題を関連づけながら、複数の主題図やグラフを読み解く力を育める内容にしています。



↑ p.193 「日本の都市・居住問題①」



↑ p.194 「日本の都市・居住問題②」

③ 全編にわたり最新の統計情報を更新

本書の巻末に設置している「統計資料」および関連するグラフや地図など 100 項目以上にわたる統計情報は、毎年の改訂で最新のデータに更新しております。さまざまな情報が溢れる時代だからこそ、生徒の皆様に正確かつ最新の情報を提供する責務が私たちにはあると考えております。そして、豊富な資料を比較・関連づけるなかで、情報をうのみにせず、自ら読み解き、論理的に思考する力を身につけていただきたいという想いを込めて、本書を編集しております。

◆おわりに

編集部では、よりよい地理教材をめざし、引き続き皆様のご意見に向き合い、一層の内容向上を続けていく所存でございます。ご審査用見本の p.2-3 の「もくじ」には、2027 年版で大改訂を行ったページを黄色マーカーで示しております。『新詳地理資料 COMPLETE 2027』をご覧ください、ご検討賜りますようお願い申し上げます。

本書には書籍版とクラウド配信版(デジタル資料集)のセット版もございますので、併せてご検討くださいませ。

商品の詳細はこちらから▶

